

『幼稚園の現場から』

36・満3歳児保育について

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

幼稚園の持つ機能の変化をざっと見てみると、ここ20年の間にずいぶん変化し、多機能になってきたなあ、と感じます。

原町幼稚園の記録を見ても、1998（H10）年には、延長保育や居残り保育と言われていた教育時間後の「預かり保育」をなんとなく始めたとあり、2002（H14）年には「満3歳児」クラスを開始して12名ほどの入園児があったと記録されています。

国が満3歳児受け入れ制度を打ち出して保護者への補助を開始したのは2000（H12）年からですし、預かり保育は都心部ではとっくに実施されていました。今では当たり前になっている「保育時間の延長」「受け入れ年齢の拡大」の始まりです。このように**幼稚園に育児支援や就労支援という機能が付加されていきました。**

大きな波は2015年（平成17）から本格的に始まった「子ども・子育て支援新制度」です。1）本格施行の前から、自民党政権→民主党→自民党という国の舵取りの移ろいにゆさぶられながらも、**幼稚園と保育園の機能を併せ持った「幼保連携型認定こども園」**に代表される新制度の施設が生まれました。幼保連携型認定こども園は7年間で10倍ほどにも増えています。2）

施設のタイプが変わるという内的変化だけではなく、**外的環境も大きく変化**しています。たとえば「小規模保育施設」や、一定基準を満たせば国から補助が出る「企業主導型保育園」（従来の企業所内保育所・託児所）も乱立し、**子どもを預ける施設の種類も多様化**しました。

さらに！今年2019年10月からは**幼児教育の無償化が始まります**。まだ概要しか情報は出てきていませんが、自治体向け説明会では、立ちくらみしそうな複雑な事務処理資料が提出されています。3）

まさに幼稚園経営者にとっては変化の20年でしたし、あと半年ほどでまた大きな渦に巻き込まれるかと思うと、まだまだ過渡期のまっただ中にいるのだと思わずにいられません。逆に言うと戦後50年以上も同じように運営してきた幼児教育界もいよいよ新しい時代に合わせて変化を求められているということなのでしょう。

《参考HP》

- 1) こども園の詳細▶内閣府/子ども子育て支援新制度
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html>
- 2) こども園の状況▶内閣府/認定こども園に関する状況について（平成30年4月1日現在）
https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/kodomoen_jokyo.pdf
- 3) 幼児教育の無償化・都道府県説明会▶内閣府/子ども・子育て支援新制度/自治体向け情報
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/administer/setsumeikai/h310218/index.html>

さて、そんな変化の中で実施から20年も経過し、幼稚園でも定着した感のある「**満3歳児保育**」に注目します。一応整理しておきましょう。4)

幼稚園の学級編制は、学校スタイルの「学年」という考え方を取っているため、年少組からの3歳保育から幼稚園に入園するのがスタンダードでした。幼稚園を所轄する県も、いわゆる「**未満児**」を入園させることはまかりならない！という厳しい行政指導がありました。そのため独自に未満児を受け入れている園は、育児支援やプレ保育という形態を取ってあくまでも園児数には入らない形態を取って運営していました。

ところが2000（H14）年から、少子化のため幼稚園児数減少を補うことと、育児支援・就労支援を促進するために、2歳児のうち年度内に3歳になる子どもたちを「**満3歳の誕生日の翌日から随時入園して良い**」と規制緩和し、入園を促進させるために就園奨励費（幼稚園保育料等の減免を目的とした補助金）を保護者に出しましょう、という政策が打ち出されました。なので、満3歳児クラスとは、保育園や幼保連携型認定こども園でいう2歳児クラスであり、**幼稚園や幼稚園型認定こども園でしか設置しないクラス**と言えます。実施形態は受け入れ人数や園の規模によってまちまちで、年少クラスに合流させて一緒に保育を行っている合流型、満3だけの独立したクラスとして設ける独立型に分かれます。

余談ですが、幼児教育の無償化案では、保育園の2歳児クラスは対象外。幼稚園の満3歳児クラスは無償化の対象という制度の狭間で起こったおかしな現象も見られています。

4) 学校教育の対象年齢について▶文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/___icsFiles/afielddfile/2011/03/23/1303354_5.pdf

『幼稚園年少組入園では遅すぎる！』

ざっと概要を説明しましたが、20年間満3歳児クラスをやってきて最近思うことがあるので、そのことについて書いていこうと思います。

原町幼稚園の満3歳児クラスは「うさぎ組」という独立タイプです。最初の頃は「**パートなどの仕事を持つお母さん方が、3歳未満の我が子を後ろめたく思いつつ預ける・・・**」というイメージで、就労支援としての存在意義が高かったように思います。今思うと申し訳ないのですが、満3歳の誕生日後に随時入園してくるので幼稚園児の晴れ舞台とも言える年間の行事にも積極的に参加させることもなく、**オマケにやってる程度の認識**でした。人数も年少組の3分の1程度、小さな子どもたちのクラスを、経験の浅い保育者や、非常勤の保育者が担当し、一日危険の無いように遊ばせておけば事足りる程度の認識でした。

転機は4年前でした。その年は経験9年目の保育者がうさぎ組を担当しました。その年のうさぎ組の子どもたちはイキイキと成長していくし、しょっちゅう年長さんがお手伝いに入り浸っているし、園内じゅうの子どもたちから可愛がられ、誰も

いなくなった園庭を我が物顔で毎日毎日遊び回り、**大きな存在感**を示してくれたのです。園の中でも先輩クラスの力を持っている保育者が受け持つことで、うさぎ組の子どもたちのポテンシャルがグーンと引き出され、園の誰もがそのことに気づきました。「うさぎ組って、いろんなことができるじゃん！」って。

なので、**うさぎ組は力を持った中堅以上の保育者が担当すること**にしました。その実践例については次号以下に持ち越しますが、僕がいま、いちばん感じていることは…ソニーの伝説社長が書かれた古い育児書（1971年初版・2008年新装版）」をパクった訳ではありませんが『幼稚園（年少組入園）では遅すぎる！』と強く感じています。

なぜなら、
幼稚園に入園してくる子どもの**発達の遅れが顕著**になってきたからなのです。

◆例1：トイレでできない。

トイレトレーニングができておらず、おしめが取れないまま入園式を迎える年少児が一定数居るのは珍しいことでは無くなりました。保護者へのプレッシャーを必要以上にかけないために、入園式までにはパンツにしましょう！という強制力も発揮していません。紙オムツの性能が上がって数回おしっこをしてもお肌サラサラなことも関係あるのかもしれませんが、おしっこは出来るけどウンチはオムツを履かないと出ない、などの新たな悩みも生まれています。年少組で半年から一年かけてやっとトイレでおしっこができるようになった、というケースが毎年1～2件ほど発生しており、もっと早い段階でアプローチする必要性を感じています。

◆例2：外遊びの経験が圧倒的に少ない。

入園してきた子ども達を見ていると、足もとがおぼつかないためにちょっとした坂道で転んだり、園の遊具で十分に遊べなかったり、両足で跳ねることができなかったり、今まで見られなかった未発達が目立ってきました。まず身体が発達しないと頭も指先も発達していきません。うさぎ組に入園した子どもたちや、プレ保育で園に半日預けてもらった子どもたちを見ていると、遊びに慣れることで目覚ましい発達を見せ、本人もイキイキしている例を見ると、早い時期から身体を発達させる良い環境でのびのび遊ぶ必要性を感じるのです。

◆例3：ことばの発達が未熟。

近所に同年代の子どもが居ないことも多く、群れて遊ぶ機会を持たないまま入園する子どもも目立ちます。子ども同士の会話に慣れていないだけでなく、家庭での会話が少ないのか、言葉のキャッチボールが当初出来ない子どもも見受けられて、一見発達障害かと思うのですが、うさぎ組に入園してしばらく経つと、そうではなかった…というケースが何人かありました。保護者へのヒアリングでは、家庭でスマホやタブレットの視聴時間が2時間以上と長く、とくにYouTubeの動画を次々と見ているという話も聞きました。影響も大きいのでは、と考えます。

◆例4：育ちの環境の変化・その一つ「親」

人間の子どもは野生動物ではありませんよ、訓練しなければできるようにならないですよ！と言いたいケースに出会うことが多くなりました。「そのうちできるようになる」と漠然と思っているのでしょうか、何を育ててきたんだらう？と思うくらい生活訓練ができていないのです。「ひらがなや英語もタブレットで結構覚えているんですよ！」と喜ぶお母さんですが、子どもはおしめも取れておらず、自分のことはほとんどできない状態であることになんの違和感も感じていないケースや、服の着脱、靴の脱ぎ着、食事の世話など全てやってあげて「甘えんぼで・・・」と言われても、そういう状況を作っていることに気づいていないなど、親へもきちんと子どものできることや可能性を伝えていかねばと思うのです。

※親の変化は社会の変化、環境の変化が影響しています。話が広がるので今回は親に絞ってみました。

★子育て中の夫婦共働き世帯も増加し普通になってきました。20年前にあった「3歳未満の我が子を後ろめたく預ける」という意識はもうありません。

例に挙げたような懸念を解決するために、働いているいないに関わらず、子どものバランスの良い発達のために、満3歳（または2歳）から必要な保育・教育を行っていくことが必要！しかも保育園のように長時間ではなく幼稚園の教育時間以内の母子分離が有効だと考えています。もうすでに取り組んでいる園も多く、遅まきながらという感はありますが、**改めて満3歳児クラスの可能性に期待し『来年度からは4年保育をめざしていこう』**と方針を掲げたところではあります。

年中のお兄ちゃんに見守られて… ぼくだつてのぼつてみせる！



原町幼稚園 園長 鶴谷圭一 (58)

HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>

MAIL : office@haramachi-ki.jp

Twitter : @haramachikinder

Instagram : haramachi.k

▶記事の内容でご感想・ご意見ご質問等ありましたら気軽に連絡ください。

「幼稚園の現場から」ラインナップ

- 第1号 エピソード (2010.06)
- 第2号 園児募集の時期 (2010.10)
- 第3号 幼保一体化第 (2010.12)
- 第4号 障害児の入園について (2011.03)
- 第5号 幼稚園の求活 (2011.06)
- 第6号 幼稚園の夏休み (2011.09)
- 第7号 怪我の対応 (2011.12)
- 第8号 どうする保護者会？ (2012.03)
- 第9号 おやこんぼ (2012.06)
- 第10号 これは、いじめ？ (2012.09)
- 第11号 イブニング保育 (2012.12)
- 第12号 ことばのカリキュラム (2013.03)
- 第13号 日除けの作り方 (2013.06)
- 第14号 避難訓練 (2013.09)
- 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
- 第16号 教育実習について (2014.03)
- 第17号 自由参観 (2014.06)
- 第18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09)
- 第19号 こんな誕生会はいかが？ (2014.12)
- 第20号 ITと幼児教育 (2015.03)
- 第21号 楽しく運動能力アップ (2015.06)
- 第22号 〔休載〕
- 第23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12)
- 第24号 お話あそび会その1 (発表会の意味)
- 第25号 お話あそび会その2 (取り組み実践)
- 第26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える)
- 第27号 おもちゃのかえっこ (2016.12)
- 第28号 月刊園便り「はらっば」 (2017.03)
- 第29号 石ころギャラリー (2017.06)
- 第30号 幼稚園の音楽教育 (その1・発表会)
- 第31号 幼稚園の音楽教育 (その2・こどものうた)
- 第32号 幼稚園の音楽教育 (その3・コード奏法)
- 第33号 〔休載〕
- 第34号 働き方改革・一つの指針
- 第35号 働き方改革って難しい